

令和5年度 宮崎県立高鍋高等学校 学校評価（自己評価および学校関係者評価）

<p>学校経営方針 (スクールミッション)</p>	<p>生徒が未来を切り拓き、よりよく生きていくために、生徒が明るく主体的に活躍できる場と、安心安全の学びの場を構築し、これからの時代を生き抜く人間力のある「誇り高き 高鍋ブランド」を持ちあわせた生徒の育成に努め、保護者・地域から信頼される活力ある学校作りを進捗する。 ○普通科（LA/CIクラス）、探究科学科、生活文化科が切磋琢磨し、地域教育の拠点校として、地域に根ざした教育や地域を支える人材の育成に挑戦していく学校 ○第二世紀を迎え、生徒・職員が新たな校風や伝統の醸成に挑戦していく学校</p>			<p>評価のポイント ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は指導等を元にした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。</p>			
<p>本年度の重点目標</p>	<p>1 確かな学力の向上と進路実現 2 豊かな心の醸成と基本的な生活習慣の確立 3 地域に開かれた信頼され活力ある学校づくり 4 自律的な自己の確立と文武両道の推進 5 教職員の資質向上</p>	<p>「生徒主体による基礎基本の養成・ICT活用」 「互いの命と人権を認め合う環境作り」 「地域拠点校としての役割推進」 「自主性・自立性を涵養する文武の推進」 「各種研修の受講による指導力向上」</p>	<p>評価段階 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する</p>				
<p>学校の重点目標</p>	<p>各部・学年・科の重点目標 [上の表の学校経営方針との整合] [各部/学年/科のミッションを念頭]</p>	<p>評価指標（手段・ゴールイメージ） [ミッション（努力事項）を達成したといえる状況] [上の表の評価項目との整合]</p>	<p>具体的な対策</p>	<p>自己評価 評価 成果及び改善策（○実施済、成果あり、●課題あり）</p>		<p>学校関係者評価及び具体的意見 評価 コメント</p>	
<p>1 確かな学力の向上と進路実現</p>	<p>基本的な学習習慣を確立し、何事にも主体的に学び、取り組み姿勢を醸成する。</p>	<p>自律心を強く持ち、生徒が自ら求め取り組める環境を整備し、その取り組みや結果に自己肯定感を見出せる環境の整備 オープンキャンパスへの参加。 様々な外的刺激への反応。</p>	<p>・BUタイムの充実と将来的展望に立った発展的解消への模索 ・外へ出ていきやすい学習環境づくり ～Google Classroomの積極的活用～</p>	<p>2.9 ○各先生方がICTを活用した授業展開を試みられている。 ○●BUタイムは3学年共に年間計画等を企画・立案・実践していたが、各学年がどういう取り組みをしているのかは、受け取り側がしっかりと受け取れない状況であった。学校としてまたは教務部としてまとめておく必要性を感じた。</p>	<p>2.8 ・現在は、進行形ということもあり自己評価は低いとのことだが、「自走」に向けての取り組みは期待できるものと判断する。 ・ICT導入は教員の負担軽減にもつながってほしい。 ・高鍋高校としてはどうありたいのかビジョンの達成のため改革をお願いします。</p>		
	<p>地域に選ばれた学校として、各方面との連携強化を行い、個々のライフプラン実現をサポートできるような学校体力を付ける。</p>	<p>オープンスクールへの参加生徒増加 オープンスクールに参加した生徒の受検希望増加 入学者選抜検査生徒数増加</p>	<p>・教育魅力化情報部やKGC（こゆ学友団コンソーシアム）との密なる連携と協働体制の強化 ・教育課程の検討と観点別評価の深化</p>	<p>2.7 ○教務部会や教科代表者会・教科会での議論を重ねてもらったり、昨年度の理科と今年度の地理歴史公民科が担当した新時代に対応した授業研修を通して、観点別評価に関する理解が昨年度までと比べて深まったように感じられた。 ●自走を目指すための第一段階として教育課程表C表の改訂を提案していたが、年度途中から管理職預かりとなった。 ●連携を必須とする取り組みに関しては、役割分担だけでなく、主管をもう少し明確とする必要があったように思う。</p>	<p>2.8 ・オープンスクールの入学希望者が増加している傾向であれば、数回実施することを検討されてはいかがでしょうか？ ・自走を目指すためには、「どうしなさい」ではなく「あなたはどうしたいのか」を引き出すことが大事だと思います。</p>		
	<p>常に疑問を持つ意識を失わず、その中に自らの活路を見出し、「自走」する能力を育成する。</p>	<p>探求（自求）し、探究（自走）することで自己実現へと到達する。</p>	<p>・「探究」を常に意識した授業改善のための授業研修と授業公開（Input⇒Output, PDCAということ）</p>	<p>3.0 ○「新時代に対応した」取り組みを指定された教科だけではなく、全教科で取り組むことを意識・実践したことで、取り組むべき方向性を共有出来ている。 ○初任者が多かったこともあり、他の先生の授業を見る・授業を見ることが「普通」となっていた。こうした職場環境は継続していった方がよいではないか。 ●ICTをはじめとする外的環境の変化と教員に求められている「この10年間」の取組とこれまでに教職員が培ってきたノウハウがまだ上手く噛み合っていないように感じられた。</p>	<p>2.8 ・教職員の数（マンパワー）は十分なのではないか？ ・生徒が教師へ質問することはとても勇気が必要であり、関係性を気付くには難しい点もあるかと思いますが、生徒の思いを引き出せるような具体的な取り組みがあると意欲向上につながられるのではないかと思います。</p>		
<p>2 豊かな心の醸成と基本的な生活習慣の確立</p>	<p>(1) 生徒の一人ひとりの個性を尊重した指導と基本的な生活習慣の確立</p>	<p>(1) ①元氣な挨拶ができ、端正な容儀を保っている ②法令や校則を遵守し、モラルやマナーを大切にしている</p>	<p>(1) ①服装容儀規定の規律づくりに生徒自らが携わること、規範意識を高める ②関係部や学年と連携を図りながら、生徒の情報共有し、迅速な対応を行う ③関係機関と連携し、講話やHR活動を通して心の教育や規範意識を高めるための教育を充実させる ④交通マナーを向上させる指導を充実させるとともに、自転車当校生徒へのヘルメット着用を呼びかけていく</p>	<p>3.0 ○新たな高鍋高校生への身だしなみのルールを生徒と共に考えることができた。変更に伴う生徒の服装容儀の大きな乱れはない。 ○職員の時指導により、生徒達の挨拶はよくできている。 ○交通に関する地域の方からの指摘が、例年と比較してかなり減っている。今後も指導を継続していく。 ●校内放送を活用し、自転車のヘルメット着用について、生徒の意識喚起に努めているが、実際の着用には結びついていない。また二重ロックについても、なかなか徹底できていない。自転車ヘルメット着用推進リーダー校に指定されたので、次年度からはさらに活発な活動を行っていく。 ●交通に関しては外部の方からの指摘が学校にいくことがあり、まだ生徒の校外での交通マナー意識が希薄なところがある。</p>	<p>3.3 ・推進校として手を挙げるなど、積極的な動きが感じられた。 ・ヘルメット着用で地域の見本になっていただきたい。 ・mqgomiのような生徒主体の取り組みを今後も期待している。 ・挨拶はとてもよくできているし、服装もちゃんとしているので素晴らしいと思う。 ・鞆に大量のマスコットを下げている生徒を見かけます。 ・生徒と共に規則の変更に取り組まれたことは大きな変革であり、外部にも伝わってよい印象となっているように感じる。</p>		
	<p>(1) 社会性があり、地域に愛される生徒の育成</p>	<p>(1) ①自分や周囲の人達の安心・安全を尊重することができる ②地域のボランティア等に積極的に参加できる ③情報機器や様々な情報に適切に関わることができる</p>	<p>(1) ①関係機関と連携を図り、交通マナーや規範意識の向上に努める ②地域で開催されるボランティアの情報を随時生徒へ案内し、参加する機会を増やす ③関係機関と連携し、情報モラルの向上に努める ④HR活動等を通して主権者教育を充実させる</p>	<p>3.0 ○落ち着いた雰囲気の中で生徒達が学校生活を送ることができている。 ○ボランティアの募集を、案内からすぐに生徒へ連絡することができ、参加したい生徒にとって良かった。 ○コロナ禍で制限がかかっていた学友団活動が、本来のかたちで活動できるようになった。 ●問題行動が数件起こってしまった。 ●昨年度よりボランティアの参加人数が減ってきており、ミラユメでの要項の添付だけではなく、クラスの手箱に直接案内プリント入れる方が、効果的であったことが分かった。</p>	<p>3.1 ・子供の自律のためには、決定権を子どもに渡していった方がいいと思います。 ・部活動生を中心に高鍋町が実施した海水浴場ビーチクリーン活動、高鍋城灯籠まつり等に積極的に参加していただき感謝します。今後も高鍋高校生パワーをアピールしてもらいたいです。 ・挨拶や地域の方への手助けなどは高鍋高校の伝統でもあると思いますので、引き続き指導をお願いします。</p>		
	<p>(1) 生徒の主体性の育成と部活動の充実</p>	<p>(1) ①勉学と部活動の両立をに向けて真摯に努力している ②各種行事、委員会活動に積極的に参加している</p>	<p>(1) ①部活動の活動内容や大会・試合日程、結果等を関係部署と連携して校外に喧伝し、応援・支援体制を向上させる ②生徒の主体性を尊重しながら、活躍の場を提供し、生徒会執行部や各種委員会活動、実行委員会の活動の支援を行う ③本校の現状に合った各種委員会の見直し</p>	<p>3.0 ○生徒会ならびに実行委員の運営と、生徒会担当やそれぞれの部門の職員の協力があり、鳴海ヶ丘祭が充実したものになった。 ○リモートでの表彰等、生支部の部員で対応できるようになった。 ○活発な生徒会活動ができている。→mqgomiが完成した。 ●委員会組織・活動の見直しが必要である。 ●生徒会役員候補の大幅な減少により、選挙の方法も考え直していく必要がある。 ●2学期以降、退部する生徒がみられた。</p>	<p>3.3 ・野球部の3年生を送る会に参加させていただきましたが、3年生全員が「親・先生・チームメイト・後輩」に向けてそれぞれ感謝の言葉を涙ながらに話している姿を見て感動するとともに、素直な生徒ばかりだと思いました。 ・鳴海ヶ丘祭も最高の盛り上がりだったと思います。</p>		

部 等	学校の重点目標	各部・学年・科の重点目標 【上の表の学校経営方針との整合】 【各部/学年/科のミッションを念頭】	評価指標（手段・ゴールイメージ） 【ミッション（努力事項）を達成したといえる状況】 【上の表の評価項目との整合】	具体的な対策	自己評価		学校関係者評価及び具体的意見	
					評価	成果及び改善策（○実施済、成果あり、●課題あり）	評価	コメント
教育 魅力化・ 情報部	1. 確かな学力の向上と 進路実現	情報化社会を生き抜くための技術や アイデアを学ぶ環境を整備し、学校全 体の情報活用能力の向上を図る。	①県導入の教育アカウントを適切に学習・ 学校活動で利用している。 ②明倫をはじめとした様々な探究活動で効 率的に利用できている。 ③正しさを知り、正しく恐れる。	①オンラインや講話を通じて適切な利用を促 す。 ②アカウントを適切に利用するためのアイト ブックを 作成する。 ③教科や学科と連携を図り、生徒が効果的に ICT活用ができる教育を実施していく。（例：情 報科理科の知識が「データ」の活用～統計グ ラフツールへの発展～など） ④頻出する事案などに対しては対策を周知し 対応していく。	3.0	○多くの教育活動（明倫や普段の授業、進路研究）の場ICTの活用が浸透し ている。 ●生徒に情報モラルやセキュリティに関する指導が必要な場面があった。 ●明倫（総合的な探究の時間）の探究活動や探究科学科の探究Ⅱの探究活動 では個別端末導入に伴い飛躍的に研究内容が深まった生徒もいる一方で、全く 個別端末を活かしていない生徒もいるので端末活用のしむきを考える必要がある。	3.2	・外国人留学生との交流や地元の小中学校との連携を 継続してほしい。 ・新聞、TV等で高鍋高校を見聞する機会が増え ていると思います。今後もプレスリリース等積極的 にPRして いただきたい。 ・発表を見せていただき、限られた時間の中でこ まどめるのは生徒も先生もかなりエネルギーが 言ったことだろうと感心させられました。調べた ことの発表に止まらず、深めるところまでい くことの難しさが良い経験となり、これから に生かしていかれることだろうと思った。
	3. 地域に開かれ信頼さ れ活力ある学校づくり	地域や児湯郡周辺中学校、KGC（児 湯学友会コンソーシアム）との連携を 通じて、協働的な学びの場を創出する。 また、高鍋高校の新たな価値を創 造し、発信する。	①地域の中学校や塾等との連携を図る。 ②KGCと連携の形を模索しながら地域に 貢献できる高鍋高校として活動する。 ③オープンスクールの企画を通して本校生 徒の自己肯定感や自己有用感の醸成につ ながる。 ④鮮度の高い情報を随時配信することで、 高鍋高校の教育活動への関心を高める。	①中学校へ説明会出向く教員と生徒の選抜と 事前指導、資料作成を行う。 ②塾等へ適宜情報を発信する。 ③授業公開の計画を教務と連携して行う。 ④出前授業を企画し小中学校との連携を模 索する。 ②KGCとの連携を行い地域とつながりを作 る。 ③OSの全体企画運営を行う。 ④HPの円滑な更新を行い新鮮な情報を提供 する。 ④SNSを効果的に利用して中学生・高校生 に対して鮮度の高い情報を発信する。	3.2	○高鍋高校をPRする機会を生徒主体で数多く設 けることができた。 ○KGC企画では連携して企画することができ た。また令和明倫堂塾は多くの職員を巻き込 んで実施することができた。 ○10日間米国留学生団受け入れ、高鍋東中 学校2年生の進路学習1日高校学 び体験の受け入れを行い、地域や中学校小 中学校との連携を実施することができた。 また次年度以降も継続することになり、土 台を作ることができた。 ●情報発信について更新速度を上げるた めに校内での情報収集、データ収集を円滑 に行う必要がある。 ●校務分掌内で完結するのではなく、各行 事をもっと職員間の連携を意識して行 いたい。そうすることで多くの職員と生 徒との接点が増えて生徒が承認される 機会も増えると思う。	3.6	・高鍋高校の存在は高鍋町にとって地域資 源の一つだと考えます。さらなる発展を希 望します。 ・JR高鍋駅が近々リニューアルされる予 定のようなので、日豊本線沿いの中 学校・塾等へアピールの強化を 図ってみたいかがてしょうか？ ・コンソーシアムなど、児湯郡の中 学生や行政との連携をお願いします。
	5. 教職員の資質向上	効果的なICT研修を企画し、授業力 や情報処理能力、情報活用能力の向 上に繋げる。	①授業研修企画実施 ②業務でのICT活用が適切にでき ている。	①職員研修を実施し授業での活用方法を波及 していく。 ②ICT活用授業公開を実施する。 ③職員向けに業務でのICT活用について の研修を実施する。 ④他の校務分掌と連携を図り効果的なICT 活用を促す。	2.5	○職員研修を定期的に行うことで職員のICT スキルアップに繋がっている。ICT 活用授業公開のための調査で予想より はるかに多くの職員がICTを使った 授業を展開していることがわかった。 ○部会のペーパーレスが浸透している。 ●職員のニーズに合った研修内容を 企画しているが、職員により活用度 合いが異なる。 ●研修として設定されなくても 普段から授業を参観しあえる風土 を作るためのパイオニア的な仕 掛け作りを考える必要がある。	3.0	・検定に対して対応できるように 頑張る教師の方々、本 当に 対 し て し ょう。専門性があること なので、どのように取り 組むか、今後も期待 します。
進路 支 援 部	1. 確かな学力の向上 と進路実現	実現のための学力向上・活動実績つ くりの支援とキャリア教育の充実	①自分の将来像が明確にイメージでき、卒 業後の進路希望が具体的に なっている ②基礎学力の定着を図り、進路実現へ向 けた諸活動・資格取得に積極的に 取り組んでいる。 ③国公立大学入試試験合格率、推 薦入試50%、一般入試40%を 達成 ④就職試験合格率100%を達成	①進路LHRを活用し、1年次からの志望校 対策指導を実施する ②進学講演会、進路ガイダンス、県内 大学訪問の実施 ③インターンシップの実施（2年CI 生文）④受験における小論文・面 接指導の組織的な取り組み ⑤夏期・冬期セミナーの計画・実 施 ⑥学力検討会、進路判定会、模 試分析会の充実を図る	2.8	○1年次では大学出前講座と職業体験 が「ダンス」、2年次では県内大 学訪問を新たに実施し、生徒が自 分の進路を具体的に考える良 い機会となった。 ○3年次での放課後課外、長期休 業中のセミナーを生徒の希望 制で実施した。意欲のある生 徒が多く受講し、充実したも のとなった。参加を希望して いない生徒の学習状況は気 になるところであるが、実 施内容を工夫し来年度さら に実りあるものにした。 ○資格取得については英語検 定に挑戦する生徒が増えた。 受験生全員が合格まで達成 できるように英語科と協力し て学力向上に努めていき たい。 ●国公立大学入試試験合格 率、推薦入試は26%であ った。3年次での小論文・ 面接指導は組織的に実施 できているが、学力向上 はもちろん、探究活動や 実績が不足していると感じ る。低学年次からの仕掛 けや具体的な取り組みが 課題である。 ○就職試験合格率100% 達成した。CIクラスと生 活文化科の担当教諭が 組織的にインターンシ ップや就職試験対策に 取り組んだ結果だと感じ ている。	3.1	・朝課外の廃止に伴い、余 裕ができることによって、 新たな取り組み、挑戦が できることを期待したい。 ・様々な社会人の意見を 聞く機会も有益。 ・高鍋高校卒業生で各 方面の第一線で活躍さ れている方をお招きして の講演会を実施しては どうでしょうか？ （ご自身の高校生活、 目標達成までのプロセス 等）
	4. 自律的な自己の確 立と文武両道の推進	生徒の主体性・自己管理 能力の育成	①短期的・長期的な目標 を立て、計画的な取り組み を通して、確かな実践力 を身につけている ②自宅学習を中心とした 学習習慣が身につけ ている	①「生活の記録」を活用し、 日々の生活状況を振り返 る ②学習実態調査結果と学 習成績のデータを分析し、 対策を講じる	2.5	○「生活の記録」冊子は、 教職員が生徒の学習状況 を把握し、生徒とのコミュ ニケーションを図るツール として活用度が大きいと感 じる。 ●生徒の学習実態調査を 実施することができてい ない。学習習慣の定着度、 模試の成績、朝課外廃止 の影響等を分析し、来 年度の取り組みにつな げていきたい。	3.1	・分析が大事だと思 いますので、学習実 施内容の調査 をお願いします。
	5. 教職員の資質向上	生徒の可能性を最大限に 伸ばす進路指導の研究	①入試研究会や講習会 などの研修に積極的 に参加している ②最新の進路情報を 教員間で共有し、面 談等に活用でき ている ③進学・就職に係 る実践力を育成す るための授業改善 に取り組んでいる	①受験に係る校内研修 の計画・実施 ②進路説明会や企業 説明会への積極的 参加と情報共有 ③県内新規企業の開 拓と先進校視察の 計画	2.5	○大学説明会や入試 研修会は、教職員で 手分けして参加し、 学年会や学力検討 会で情報共有し面 談に活用できた。 ●新課程入試に関 わる研修会に、先 生方が担当学年を 問わずに参加し、 先を見通した進 路指導や、授業改 善のきっかけとな るよう呼びかけ ていきたい。 ○就職試験につ いては、進路希望 の職種を分けて丁寧な 説明会を実施できた。	2.9	

部 等	学校の重点目標	各部・学年・科の重点目標 【上の表の学校経営方針との整合】 【各部/学年/科のミッションを念頭】	評価指標（手段・ゴールイメージ） 【ミッション（努力事項）を達成したといえる状況】 【上の表の評価項目との整合】	具体的な対策	自己評価		学校関係者評価及び具体的意見	
					評価	成果及び改善策（○実施済、成果あり、●課題あり）	評価	コメント
保健 環境・ 相談部	2 豊かな心の醸成と 基本的な生活習慣の確立	健康安全教育の推進 校内環境美化の推進	①③毎朝のHRでの健康観察の実施できている。 ②職員研修（応急手当、心肺蘇生法）の実施ができてきている。 ④関係機関と連携し、校内の衛生管理の徹底ができてきている。 ⑤⑥定期的な清掃活動状況の点検ができてきている。 ⑦定期的な校内安全点検の実施ができてきている。	①生徒の心身の健康の充実を図る ②救急法の実践活動を推進する ③個人の健康管理を充実させる ④校内衛生管理の充実を図る ⑤日常の清掃活動の指導・監督 ⑥定期的な清掃状況の調査・確認 ⑦学習環境の点検及び改善	3.0	○日々の健康観察の実施や換気指導の徹底などを全職員で協力し実践した結果、感染症の爆発的な蔓延には至っていない。 ○年度早いうちに救急救命研修（職員向け）を実施し、緊急時に対応できる体制が整えられた。 ○睡眠不足で体調を崩し保健室に入室する生徒が大幅に減少し、生活アクトの結果からも睡眠時間の増えた生徒の割合が多く、健康安全面に限っては朝課外を無くしたことが良い結果として表れている。 ●汚水処理設備は整っているが、日常清掃活動がしっかりとできていない生徒も見られる。基本的な清掃の仕方から指導の必要な生徒もいるようなので、各清掃場所での担当職員による指導を徹底したい。 ●防災訓練のあり方については、次年度以降外部との連携活動を含めたより実践的な内容を検討したい。 ●売店前の建物に外壁落下の危険性があるなど構内いくつか危険な箇所がある、予算との関係もあるのだから早急な対応が必要。 ●校内のバリアフリー化を推進する必要がある。	3.2	・生徒たちの多様な性の悩みにも対応してほしい。 ・予算的制約もあるだろうが、バリアフリー化への対応も必要。ソフトハード両面をお願いしたい。 ・整理、整頓、清掃、清潔の4Sを徹底することで学力向上、健康維持にもつながるのではないだろうか？ ・校内に危険箇所があるのであれば、そうきゅうにたいおうしていただき、安心安全な学校作り心掛けてほしい。 ・南海トラフ地震等大規模災害への備え、また、学校再開に向けたBCP策定などは万全なので、自分で行っていかなくてはならないもので、現在は予防に力を入れなければならない時代なので、その点に力を入れるよう指導すると良いかと感じます。 ・外部には見えづらいところで、3の評価をつけさせていただいた。 ・不登校生に対する対応には今後に期待したい。
	4 自律的な自己の確立と文武両道の推進	生徒支援の向上	①学年会や保護者と密に連絡を取り、情報を共有できている。 ②生徒一人一人を大切に、組織的にサポートする体制ができてきている。 ③生徒の家庭や生育状況に応じたサポートができるような体制が整っている。	①学年会や保健室の情報を基に速やかな対応 ②生徒支援部との連携による生徒理解の深化 ③校内外の諸機関との連携を密に図る	3.0	○年度初めの職員研修や外部講師を招いての研修を通じて、支援を必要とする生徒の確認や対応の仕方について、全職員で意思統一が図れた。 ○相談室や保健室の情報を該当の学年主任や担任に適切なタイミングで伝えることができた。 ○外部施設と定期的な情報交換を行うことができた。 ●相談室登校の生徒に対する教科担任の支援が少ないように感じる、少しでも声かけ等の支援があると悩みを抱える生徒の励みになるので、その都度該当職員に対応をお願いしていく。 ●不登校傾向で欠課時数が多い生徒に対する学校としての単位認定基準や支援体制が確立されていないため、保護者との対応における担任の負担が大きい。	3.2	
	5 教職員の資質向上	生徒・保護者・職員の支援	①全職員や担当職員間で生徒情報を共有し、効果的な指導・対応ができてきている。 ②生徒（保護者）が安心して相談できる環境が整っている ③定期的に生徒の状況が把握できている。 ④生徒への支援が関係職員と連携してできている。	①教育相談に関する研修の実施 ②教育相談室の整備と活用 ③教育相談アンケート・週間の実施と活用 ④担任、副担任、部顧問及び保護者との連携	3.0	○年3回教育相談アンケートを実施し、その都度気になる表記をしていた生徒に対しての面談（担任等）を実施し、個別対応ができた。 ○スクールカウンセラーによるカウンセリングが、生徒だけでなく職員に対しても実施でき、有効に機能した。 ○相談室を利用している生徒に対して、担任・保護者（・部顧問）、との連携が図れた。 ●教育相談アンケートの内容に関して、生徒の本当の悩みや気持ちが反映されるような質問内容の工夫や見直しが必要である。	3.3	
渉外 広報・ 図書部	2 豊かな心の醸成と 基本的な生活習慣の確立	1. 読書指導の充実 2. 生徒図書委員活動の充実 3. 館内の環境整備の充実	1. 本に興味関心を持ち、課題解決や進路実現に役立てることができている。 2. 生徒主体の図書館運営を目指し、各係が協力しながら責任を持って活動できる。 3. 新刊や良書をそろえ、落ち着いた雰囲気読書できる空間作りを努力する。	1. 朝の読書を通して興味関心を深めさせる。また、月初めの図書部会で選書し、生徒や職員から希望図書を出してもらう。 2. 毎月新刊案内、ライブラリーニュースを発行して、本の紹介や図書室利用を呼びかける。 3. 調べ学習やアクティブラーニングへの関わり方を検討する。また、季節に合わせて閲覧室の様態替えや特設コーナーの本をリニューアルする。	3.0	○職員で協力し、朝読書の良い雰囲気を作ることができた。 ○国語科などの各部署と連携して学年ビブリオバトルを実施し、生徒による県大会出場生徒の選出ができた。 ○図書委員会は活発に活動をおこなった。その中でも、ブックカフェを初めて実施し、図書委員の協力でスムーズな運営ができ、生徒から高評価であった。 ○図書委員にテーマを決めさせて図書の特集コーナーを企画させた。生徒の図書館利用のマネーは良い。 ●指導者がGoogleClassroomの活用や定例生徒会の充実を通して、図書委員が主体的に図書館運営ができるような環境を作る。 ○業者による蔵書点検を初めて導入した。職員の蔵書の現状把握と環境整備に非常に役立った。	3.2	・ブックカフェなどユニークな取り組みを続けてほしい。 ・生徒が主体となって企画、運営されたブックカフェへの取組は今後も積極的に取り組んでいただきたいと思えます。 ・新たな取組みが見られ素晴らしいと思う。
	3 地域に開かれた信頼され活力ある学校づくり	1. 学校・保護者の連携を深める 2. 職員・保護者の研修の機会設定 3. 生徒・保護者・地域社会への情報提供	1. PTA総会および学年PTAへの参加率70%以上 2. PTA活動を通して、環境整備や学校行事生活性化の活動を行う。また、PTA各種研修の成果を生徒に還元する。 3. 魅力ある、PTA新聞、高鍋高校広報紙、学校パンフレットの作成を行う。	1. 保護者案内を早期に行い、会の内容が魅力あるものになるように検討する。 2. PTA奉仕活動や食物バザーを保護者と学校が連携して実施する。 3. PTA新聞は学期毎に広報委員と職員が協力して編集発行する。また、高鍋高校広報紙、学校パンフレットの内容を、部会を通して検討する。	3.0	○職員とPTA役員が協力して、PTA総会や新役員会を計画的に実施できた。諸会議は、PTA役員からの積極的な意見が出るなど活発化している。また、PTA役員が受付や駐車場の業務に積極的に参加していた。 ●学級役員選出が決まらないクラスがあり担任が苦勞していた。選出方法について検討が必要である。 ○職員がPTA役員や保護者と連携を深めながら、食物バザー、PTA奉仕活動、寄せ植え教室等の行事にあたることであった。特に県高P連大会では事務局校としての役割を十分に果たすことができ、実りある大会になった。 ○PTA新聞、学校パンフレット、広報紙の作成は担当者がしっかりと計画的に行っていた。 ●PTA組織や総会をはじめとする行事の在り方について、職員とPTA理事が中心になって時代とニーズに応じた改善策を練っていく必要がある。	3.3	・ペーパーレスに向けた取り組みも必要ではないかと感じたところもある。※SNSの活用など、周知・広報手段の見直し、改善等 ・県高P連秋季大会事務局、大変お疲れさまでした。

部 等	学校の重点目標	各部・学年・科の重点目標 【上の表の学校経営方針との整合】 【各部/学年/科のミッションを念頭】	評価指標（手段・ゴールイメージ） 【ミッション（努力事項）を達成したといえる状況】 【上の表の評価項目との整合】	具体的な対策	自己評価		学校関係者評価及び具体的意見	
					評価	成果及び改善策（○実施済、成果あり、●課題あり）	評価	コメント
事務 部	1 確かな学力の向上と進路実現	(1) 生徒が主体的に学ぶ事業の実践	①教職員が満足して教育活動を行える環境を整える。	(1) ①年度当初に各部掌・各教科に年間を通じて必要な物品・修繕等の調査を行う。 ②情報交換により、今現在不足していることが何かを把握する。	2.0	○年度初めの調査であがってきた、各教科・校務分掌の希望物品（消耗品）の購入を進めることができた。 ●個別にあがってきている修繕要望には、まだ取りかかれていない箇所がある。	2.7	・ひきつづき県への修繕の要望や対応をよろしく願います。
	2 豊かな心の醸成と基本的な生活習慣の確立	(1) 環境美化や環境整備の充実	①校内にごみが落ちていない。 ②一般ごみ・産廃の分別がされている。 ③定期的に除草・剪定が行われている。	(1) ①産業廃棄物、金属物の処分を年3回（学期1回）行う。 ②15分間の清掃活動を充実させる。 ③ごみ分別の方法をアナウンスし、各職員室にゴミ箱の設置を行う。	3.0	○5/11・10/27に金属物の処分、11/16に産業廃棄物の処分を行った。学期に1回は不用品を処分し、以前と比べて校舎内外が整理されている。 ○ゴミ保管庫担当の美化委員からの呼びかけ等により、各クラスや職員室から出るゴミの量が減少し、分別がされるようになった。	3.3	・学校はきれいに整備されていると思います。 ・地球環境については日頃からの意識付けが必要だと思います。引き続きご指導をお願いします。 ・校内整備、いつ来てもきれいに整備できているよう継続を求めます。
	3 地域に開かれた信頼され活力ある学校づくり	(1) 計画的・戦略的な広報活動の充実	①地域住民・中学生等に関心を持ってもらえる。	(1) ①学校パンフレット等、年度当初から広報活動で使用できるよう、予算執行を早期に行う。 ②よりよいHPとなるよう担当職員と話し合う。 ③丁寧な窓口対応、電話対応に努める。	3.0	○学校パンフレット、ポスター、クリアファイルを年度初めには準備できた。 ○窓口や電話での対応において丁寧に行えている。	3.4	
	4 自立的な自己の確率と文武両道の推進	(1) 教育活動における事故の未然防止 (2) 県の予算執行方針に基づく効果的な執行	①危険箇所の早期発見、速やかな予算要求を行う。 ②メリハリのある予算執行を行う。	(1) ①常日頃からリスクとなる要因を洗い出す。 ②教職員と日常的に情報交換を行う。 (2) ①予算執行状況を報告し、教職員で共通理解を図る。 ②限られた予算を有効利用するため、昨年度比2倍の電気料は節電を促し、1.4倍の用紙代はペーパーレス化、裏紙利用等の対策を取る。	3.0	○校内の危険箇所の工事や修繕を進めることが出来ている。 ○12月末時点で水道の使用量は前年度比33%減、電気は6%減となり、料金が減少した。 ●用紙の使用量が減っておらず、ペーパーレス化が進んでいない。	3.2	・他の部の自己評価では、「ペーパーレス化が進んでいる」との記述もあるが、全体としては進んでいないということでしょうか？
第 1 学 年	1 確かな学力の向上と進路実現	(1) 生徒の可能性を最大限に伸ばし、進路実現を達成させるための基礎となる学力を身につけさせる。	①自己理解と進路理解に努め、進路目標の早期設定ができる。 ②自宅学習を充実させ、基礎学力の定着を図ることができる。 ③各種模試を活用し、自己分析ができていく。	(1) ①明倫の時間を充実させ、職業や進路に対する興味関心を引き出すと共に、オープンキャンパスや大学講義への参加を促す。 ②授業・自宅学習を連動できる指導を行う。 ③BUタイムの内容を充実させる。 ④自宅学習時間調査を行い、二者面談に活用する。 ⑤対外模試を活用して、学力の自己分析を行う。	2.8	○明倫の時間では、教材を用いて探究の進め方を学習し、「地域巡検」を通して見つかった児湯地区の課題が20年後どうなっていくのかを考え「未来新聞」の作成をし、発表会を行うことができた。 ○大学出前講座や職業人の声を聞く会を行い、大学での学び、社会で働くことについて考えるきっかけ作りができた。 ○担任との面談を通して、進路目標の設定に動き出し、志望校のレベルを上げたり、志望校が固まった生徒が増えた。 ●主体的な学習習慣ができておらず、受け身の学習からの脱却に至っていない。英検受験者が非常に少ない状況にある。 ○BUタイムでは、学年全体で共通理解を持って取り組ませることができた。2学期には「スタバ」(リルート)配信課題を利用して取り組ませたことで、学習の自走のきっかけ作りができた。 ●自宅学習時間調査を学年で実施することはできず、「生活の記録」による担任把握にとどまった。学年統一での宅習量調査を実施することで、学年全体の学習量把握に努め、教科での指導を生かせるようにしていきたい。 ○対外模試の結果をもとに学力検討会を行い、継続的に指導の見直しを行うことができた。3学期に受験する模試でGTZを1つ上げることが目標に取り組み、振り返りを充実させて2年生に繋げていきたい。	3.2	・未来新聞は面白い。広く地域の人に見てもらいたいのではないかと学校のアピールにもなる。 ・制服が変わり、外部の方からも注目を集めた学年であったと思います。
	2 豊かな心の醸成と基本的な生活習慣の確立	(1) 基本的な生活習慣の確立を図ると共に、自主性・主体性を養う。	①挨拶や服装容儀、清掃活動など、高鍋高校生として相応しい学校生活を送ることができている。 ②常時指導を徹底し、遅刻、欠席ゼロを目指す。	(1) ①学校での全ての活動を指導の場と捉え、常時指導を行う。 ②学級担任・副担任による二者面談を行い、生徒の把握に努める。 ③生徒支援部・保健環境相談部との連携を図る。 ④師弟同行による清掃活動を行う。	3.0	○基本的な生活習慣や挨拶励行は良好である。 ●期の登校時間に遅刻をする生徒が入学当初よりも増え、時間や期日の重要性を教えていく必要がある。 ○生徒との二者面談を定期的に行うことで、生徒の状況把握に努めている。担任・保健環境相談部・生徒支援部との連携を図ることで、生徒状況把握・指導に生かすことができた。 ●自習時間や昼休み等、教師の目が届かない時間のスマホ使用があった。学年集会での注意喚起を行ったが、生徒が心から真摯に向き合える指導をしていかなければならない。 ○清掃活動には師弟同行で取り組めており、良好である。 ●教室の整理整頓（ロッカー等）をさらに意識していきたい。	3.2	
	4 自立的な自己の確立と文武両道の推進	(1) 学校行事・部活動・ボランティア活動等に積極的に取り組み、行動力と豊かな人間力を育てる。	①部活動への加入を推進し、文武両道を目指している。 ②学校行事や各種ボランティア活動に主体的に参加し、学校・地域に貢献する活動ができている。	(1) ①定期的に行う学年集会の場で、部活動の大会や各種コンクール、様々な取り組みをしている生徒を紹介する場を設ける。 ②部顧問との連携を図り、学習・部活動のパラメータを意識した指導を行う。	2.9	○学年集会で、同じ学年で頑張っている生徒の生の声を聞く場を設け、文武両道を目指す雰囲気を作ることができた。 ○学校行事や委員会活動、ボランティア活動の中で、一番の学年であっても活躍してくれた生徒が多いた。主体的に参加をしていく生徒をさらに育成していきたい。 ●学年全体の部活動加入率は76.7%（5月時点）。その後入部した生徒もいる一方で、学習面を理由に、所属していた部活動を辞める生徒が数名出た。部活動は特に頑張っているが、文武両道という面ではまだまだ到達できていない。両立を目指した指導を行ってほしい。	3.0	

部 等	学校の重点目標	各部・学年・科の重点目標 【上の表の学校経営方針との整合】 【各部/学年/科のミッションを念頭】	評価指標（手段・ゴールイメージ） 【ミッション（努力事項）を達成したといえる状況】 【上の表の評価項目との整合】	具体的な対策	自己評価		学校関係者評価及び具体的意見	
					評価	成果及び改善策（○実施済、成果あり、●課題あり）	評価	コメント
第 2 学 年	1 確かな学力の向上と進路実現	(1) 進路実現に向けて自助努力ができる生徒の育成	(1) ①長期休業期間を利用して全員がオープンキャンパスに参加している。 ②2年在学中に探究・LASクラスは英検2級、LAクラスは英検準2級、CI・生文クラスはキャリアUpにつながる資格を取得する ③定期テストでの欠点保有者が0になる ④難関大学志望者の数が増加する ⑤具体的且つ現実的な進路目標が確立している	(1) ①ICT機器を利用してオープンキャンパスや校外セミナーの案内を配信する ②各種検定に向けた講座の開催 ③定期テストに向けた学習会の開催 ④難関大志望者に対する個別指導 ⑤BUタイムで進路講演会を開催 ⑥Classi学習ツール利用の促進	3.0	○1学期に実施した県内大学訪と進路相談会への全員参加で、早い時期から進路に対する意識が向上した。 ○グループクラスルームを利用した講演会等の案内を随時行うことでICTを利用したセミナー等、校外での活動に積極的に参加する生徒が増加した。 ○LA・探究クラスでは英検の受験者が増加し、CI・生文クラスでは資格取得によるキャリアUPへの意識が高まった。 ●観点別評価に対する理解が不十分で、定期テストに対する取り組みが疎かになる生徒が出てきた。 ●Classiで配信される課題への取り組みはまずまずであったが、後の自主的な学習にはつながっていない。	3.2	・具体的な進路に向けて取り組むにあたり、学力向上は大切ではありませんが、「ここがわかりません!」と言える環境ではなく、置いてけぼりになっている生徒もいると考えます。問う方は「こんなことも分らないのか?」と思われるかもしれませんが、わからない所を言いやすい取り組みをすることによって、生徒の意識も向上するのではないかと考えます。
	2 豊かな心の醸成と基本的な生活習慣の確立	(1) 中堅学年としての自覚と規範意識を持った生徒の育成	①基本的な生活習慣が身につく、あらゆる面で下級生の手本となっている。 ②清掃が行き届いた健全な生活環境が整っている ③学校行事の企画・運営の中心を担うのが2年生の生徒になっている。 ④学年集会では多くの生徒が学校内外での活動報告を積極的におこなっている。	(1) ①挨拶や身だしなみの常時指導を徹底する ②師弟同行による清掃活動の徹底 ③生徒会活動を含め、あらゆる学校行事に実行委員としての参加を促す ④生徒が主体的に企画・運営する学年集会を実施する	3.0	○生徒会への立候補をはじめ、各種実行委員会やボランティア募集に積極的に応じる生徒が増えた。 ○鳴海ヶ丘祭を中心に様々な学校行事で多くの生徒が運営の主力メンバーとして活躍した。 ○日々の清掃活動に熱心に取り組む様子が見られ、気持ちよく学習に取り組める生活環境を創ることができた。 ○修学旅行は国内のキャリア研修、海外の学校間交流が充実した研修となり、生徒の満足度が高かった。 ●基本的な生活習慣の乱れ、部活動への比重が高まることによる学業軽視、スマホに取られる時間の増加など、高校生活に対する「慣れ」から生じるマイナス要素が散見されるようになった。	3.4	・生徒会を中心として、生徒が良く活動していると感じる機会が増えたのではないかと思います。一方それが一部の生徒にとどまっていなければいいが…とも思う。
	4 自律的な自己の確立と文武両道の推進	(1) 学校生活における積極的且つ自律的行動の促進	①自己の進路実現に向けての材料となるような実績や活動記録がポートフォリオにまとめられている。 ②校外でのボランティア活動に積極的に参加している。 ③部活動と学業成績が連動し、双方共に良好な結果を出すことができる。	(1) ①Classiの学習記録やポートフォリオを記入させ、生活や進路設計の自己管理を徹底させる。 ②ボランティア活動の案内や告知を個人端末に配信し、積極的な参加を促す ③部活動での成果や成績を共有させ、鍋高生としての誇りを抱かせる	2.0	○Classiを活用し、学習記録や模試の結果、ポートフォリオなど従来は紙メディアだったものをデジタルで残せるようになり、教員や保護者との情報共有が容易になった。 ○部活動では3年生の引退した後に中心的な立場となり、自覚を持って行動できる生徒が増えた。 ○校外でのボランティア活動に参加する生徒が増えた。 ●部活動と学業の連動がうまくいかず、どちらとも中途半端な取り組みになってしまう者がいた。 ●Classiの活用を学年団所属の教員全体に周知徹底できなかった。副担任や教科担任にもフルに活用できるようにしてもらうことが今後の課題である。	2.9	
第 3 学 年	1 確かな学力の向上と進路実現	(1) 具体的な進路目標を設定し、その達成に必要な学力と自学力を伸ばせることで、進路実現を図る。	①これまでの進路探究の成果を生かし、早期に具体的な進路目標を設定し、その実現のためにしっかりと自学に取り組むことができる。 ②年間を通して自己の学力的課題を把握・解決しながら、進路実現に向け粘り強く取り組むことができる。	(1) ①プレゼン型三者面談の実施により、進路目標の明確化を図るとともに、生徒たちの自律的学習を促す。 ②生活の記録や模試等の分析に基づき、個別面談を充実させ、生徒のニーズに応じた学習機会の提供を行う。	2.8	○進路面談の充実により、生徒たちに進路目標を早期に明確化し、保護者の理解・支援の下、その実現に向けて計画的に学習に取り組ませることができた。 ●BU選択制講座や夕課外等の実施にあたり、担任面談等を通じた指導にもかかわらず、「自学」を選択する生徒が多い。講座内容の工夫や、学習機会を貪欲に活かそうとする生徒の育成が求められる。	3.2	
	2 豊かな心の醸成と基本的な生活習慣の確立	(1) 基本的な生活習慣の確立と自主性・積極性の更なる向上を図る。	①「規範意識」「人権意識」「環境整美」を意識した言動をとることができる。 ②最上学年としての自覚を持ち、高鍋高校に範たる自律的行動をとることができる。	(1) ①分掌間連携や職員間の情報交換を徹底し、「寄り添う指導」を充実させる。 ②常時指導や二者面談等を通して生徒一人一人のよさ可能性を伸ばす支援を行うと共に、社会的資質・能力の発達に対する働きかけを徹底する。	3.0	○教職員間の情報交換により、即時性のある生徒指導を実践できた。HR担任を中心としたきめ細かな「寄り添い指導」により、生徒たちに安全安心な学習環境を提供できたことで、落ち着いた生徒を育成できた。 ●学校行事等において、やや教師主導の感が否めない。生徒たち自身による主体的判断と実践を通じた、体験的学びの機会の充実を図りたい。	3.1	
	4 自律的な自己の確立と文武両道の推進	(1) 学校行事・部活動・ボランティア活動等に主体的・積極的に取り組ませ、行動力と豊かな人間力を育てる。	①文武のバランスを図りながら、部活動に励むことができる。 ②学校行事・生徒会活動・ボランティア活動等に主体的に参加することができる。	(1) ①部顧問との連携を図り、学習・部活動のバランスを意識した指導を行う。 ②各種行事・活動に関する情報提供や条件整備等、参加のための支援体制を充実させる。	3.0	○担任・部顧問の指導により、文武両道の実践、引退後の切り替えをしっかりと行うことができた。 ○コロナ禍の影響による経験値の少なさを克服し、学校行事等に全員で主体的に取り組む、最上学年としての責務を果たすことができた。 ●部活動生が模擬試験を受験できる体制の確立が求められる。「別日」の設定では不十分であった。	3.2	

部 等	学校の重点目標	各部・学年・科の重点目標 【上の表の学校経営方針との整合】 【各部/学年/科のミッションを念頭】	評価指標（手段・ゴールイメージ） 【ミッション（努力事項）を達成したといえる状況】 【上の表の評価項目との整合】	具体的な対策	自己評価		学校関係者評価及び具体的意見	
					評価	成果及び改善策（○実施済、成果あり、●課題あり）	評価	コメント
生活 文化 科	1 確かな学力の向上と進路実現	(1) 専門科目における知識と技術の定着	①基礎基本の定着を図り、検定全員合格を目指して取り組んでいる ②1年次からのさめ細かな一貫した進路指導を行い、進路決定率100%を達成している	(1) ①検定合格のために、放課後・すきま時間を有効活用させ、技術定着の習慣化を促す ②生徒とのコミュニケーションを密に取り、職員間で情報を共有し、普段から相談に乗る体制をととのえ、学科全体で生徒の進路をバックアップする ③インターンシップを通して職業についての意識付けを行い、進路意識を高める	3.6	○丁寧な指導により基礎的な力を身につけることができています。 ○生徒1人1人に検定合格を目指した取り組みが見られる。 ○高い検定合格率の実績を取ることができた ○1年次からの細やかな指導により進路100%を達成した。 【合格率】家庭技術検定97.2%、マナー系64.7%、ワープロ検定59%、表計算96%、文書デザイン96%、プレゼンテーション100% 【情報処理】3種目以上1級取得率90%（3種目16人、4種目7人、5種目4人） ●課外廃止に伴う演習時間不足の課題 ●確実に合格できる力を身につけるための指導法の工夫	4.0	・限られた時間を有効に活用し、時間不足の課題解決に今後も積極的に取り組んでほしい。 ・検定や資格取得に力を入れていることがわかる。 ・地域のごみ問題への取り組みは面白い。 ・いろんなことに積極的に取り組まれて素晴らしいと思います。 ・高校時代に身につけたスキルは一生涯もので、将来就職する際に有利となります。IT人材の育成もお願いいたします。 ・学科の強みが外部にも伝わってきて、学科選択がしやすいと考える。
	2 豊かな心の醸成と基本的な生活習慣の確立	(1) 社会の変化に柔軟に対応でき、社会に貢献できる生徒の育成	①基本的な生活習慣（挨拶・容儀・時間厳守等）が身に付いている ②学校行事や検定、専門科目への取り組みを通して自分の役割を果たしている	①日頃の挨拶や常識的な言動に関する常時指導を行う ②学校行事や学科独自の取り組みに積極的に参加させ、自己の役割を通してキャリア発達を実現させる	3.1	○挨拶や入退室のマナーなどの常時指導を徹底できた。 ○基本的な生活習慣の指導を学科職員で連携して行うことができた。 ○学年が上がるにつれ、学科行事や学校行事で役割を果たす生徒を育成することができた。 ●服装容儀規定の見直しにより、生徒の自律を促す指導と工夫の必要性	3.4	
	3 地域に開かれた信頼され活力ある学校づくり	(1) 地域に信頼される魅力ある学科へ	①学校説明会・オープンスクール・HP等で積極的な学科PRをしている ②地域との連携を強化している ③中高連携の推進を行っている	①学校説明会、オープンスクール、鳴海ヶ丘祭などを通して、学科の魅力の機会あることに紹介する ②HPの更新を通して、地域や小中学校に向けて活発な学科の取り組みを発信する ③外部講師招聘事業の内容を充実させ、新たな取り組みを開拓する ④専門学科の特色を生かした中高連携の取り組みを実施する	3.0	○各種行事等で生徒自身が学科のPRに大きく貢献した。 ○課題研究の授業を通して、高鍋町と連携し地域のごみ問題に取り組むことができた。 ○児湯郡家庭科の中学校の先生と意見交換会を開くことができ、指導計画の参考にする機会を得られた。 ●魅力ある学科の取り組みが多くあるが、ホームページ等での常時発信ができなかった。	3.3	
	4 自律的な自己の確立と文武両道の推進	(1) 生徒の自主性・積極性の育成	①学科全体で学校行事の成功に貢献している ②家庭に関する学科に誇りを持ち、積極的に活動する生徒を育成している	①生徒の主体性や積極性を養う機会を設定する ②鳴海ヶ丘祭の内容を充実させる（ファッションショーなど） ③計画的な学科集会を実施し、多くの生徒に役割を与え、経験を自信につなげる ④検定合格や学校行事への参加、専門科目への意欲的な取り組み、対外的な発表会やコンテストへの参加と上位入賞を目指す	3.8	○学科に関する校外研修等に積極的に参加希望するなど、学科代表としての意識を高くもつ生徒が増えた。 ○学科行事に関わる機会を多く与えることで、生徒に主体性と自主性が身に付いている。 ○学年が上がるにつれ、学科での学びに誇りをもつ生徒が育っている。	3.8	
	5 教職員の資質向上	(1) 専門性を高める効果的な授業の確立	①専門的な知識・技術を学ぶ研修への参加している ②効果的な授業の研究をしている	①積極的な研修会参加や自主研修を行う ②生徒の実態に合った効果的な授業のために、改善や研究を行う	2.8	○学科で勤務するために必要な高い専門性と教材研究を限られた時間の中で情報共有しながら進められた。 ●実技教科特有の個別指導や放課後指導、学校業務、学外から依頼される産業教育業務、検定指導などをどう効率的に行うかが大きな課題 ●年間指導計画と評価計画のさらなる検討	3.1	
探究 科学 科	1 確かな学力の向上と進路実現	(1) 高い志をもって学習に臨み、進路実現を目指して、自ら学習活動に励む生徒を育成する。	①自学自習力が定着している。 ②基礎学力とともにハイレベルな思考力・表現力を身につけている。 ③自らが進むべき道や役割を見つけ、達成に向けて学び続けることができる。	(1) ①生活の記録、個別端末等ICT機器を活用し、生徒自らが計画的に学習に取り組むことができるようサポートを行う。 ②学科独自の各種学習会の充実。 ③高大連携をはじめとした外部機関との効果的な連携、探究活動の支援や講演会の実施。	3.0	○国際シブジウムに複数の研究が本選に進出することができていたことや外部コンテストにおいて生徒の活動が評価されていることから、基礎学力・表現力・最後までやり抜く力などが身につけていると感じる。 ○個別端末を用いて、課題研究（探究Ⅱ）の幅の広がりを感じる。 ○模試や英検などを一つの目標として計画を立てたり、自ら教科担に指導を受けに行ったりする生徒が増えてきている。 ○宮崎大学の先生方によるロジミの指導や、国土交通省の方々による探究活動の指導、探究発表会など外部機関との連携をとることができた。 ●自学自習の習慣は身につけているが、成果に結びつかない。 ●ハイレベルな思考・表現に至るための基礎学力の不足。	3.2	・探究発表会はレベルが高く、より多くの関係者にも知ってもらいたい内容である。 ・基礎学力のついている生徒、基礎学力不足の生徒、と両面あるところに難しさを感じる。
	3 地域に開かれた信頼され活力ある学校づくり	(1) 多様な活動を展開し、地域と関わり合いながら、生徒の課題発見、解決能力を育てる。	①生徒主体となり積極的な学科PRをしている。 ②地域や社会全体の諸問題や矛盾に気づき、他者と協働しつづ解決を図ろうとしている。	(1) ①学校説明会やオープンスクール、Instagram等、生徒が活躍できるようなプログラム設定を行う。 ②探究活動や学校設定科目を通して、地域や社会の課題と向き合い、自分事としてそれらに向き合わせるためのカリキュラム設定。	2.8	○オープンスクール運営や企画・実行、Instagramで情報発信したり、探究発表会の広報をしたりすることによって、探究科学科の魅力や意義をPRするとともに、自分たちもそれらを再確認することができている。 ○高鍋町「広報たかなべ」や、宮崎県河川国道事務所「高鍋出張所だより」などに学科の取組を掲載していただくなど、積極的に学科PRができています。 ○●生徒の頑張りや教育関係者は理解をしてくれているが、地域や中学校小学校への波及はもう少し時間がかかるのではと思う。生徒から自主的にやってみようという活動が上がってくるような仕掛けが必要ではないか。	3.1	・「探究科学科」の強みが、中学生や保護者にもっと伝わるといいと思う。
	4 自律的な自己の確立と文武両道の推進	(1) 部活動やボランティア活動の促進とともに生徒の主体性や積極性を育成する。	①学校行事をはじめ、部活動や生徒会活動、探究活動への取り組みの中で、自分の役割を果たしている。 ②地域のイベント等に積極的に参加している。	(1) ①校内外イベントへの参加呼びかけ。 ②生徒会活動への積極的な参加の支援。 ③学科行事等における、学科内での繋がり強化。	3.0	○行事等における探究科学科の生徒の学校貢献度は非常に高い ○校内外イベントに積極的に参加している（ボランティア・講座等） ●生徒会活動への参加は一部の生徒で固定されていて、全体での積極的な参加とはなっていない。 ●学科内での縦のつながりを作る活動の工夫が必要。	3.1	